

令和6年度スポーツ功労者（プロスポーツ分野）功績概要一覧

氏名【競技名】	生年月日	功績概要
かつた てるお 勝田 照夫 【モータースポーツ】	1943年9月2日 (81歳)	<p>選手として、全日本ラリー選手権ドライバー部門で年間チャンピオンを獲得、WRC世界ラリー選手権英国大会では日本人初のクラス優勝を果たした。また引退後は、後進育成とラリー競技振興に努め、指導者として日本を代表するラリードライバーを育成する一方、ラリー競技運営においては、地域活性化のモデルプランの確立や、国際大会の国内誘致にも尽力した。</p> <p>そのほか、日本自動車連盟（JAF）において、JAFモータースポーツ専門部会ラリー部会委員を歴任する等、日本のモータースポーツの黎明期から現在までの普及と発展に貢献した。</p>
なかやま こういち 中山 浩一 【相撲】	1957年4月26日 (67歳)	<p>力士「琴風」として184センチ、168キロの体格を活かし、がぶり寄りで一世を風靡した。左ひざの負傷で関脇から幕下に落ちるも、不屈の闘志で復活し1981年には大関に昇進、二回の優勝を果たした。</p> <p>1985年に力士を引退後は、尾車部屋の師匠として弟子の育成に力を注ぐ傍ら、日本相撲協会の理事を10年務め、事業部長として理事長を補佐した。そのほか、2020年東京オリンピック・パラリンピックの醸成事業として「大相撲 beyond 2020 場所」の開催で陣頭指揮を取る等、相撲界の発展に尽力した。</p>
なりた しょうぞう 成田 省造 【モーターサイクルスポーツ】	1944年8月31日 (80歳)	<p>モーターサイクルスポーツの一つである「トライアル競技」を日本で形成し牽引した一人。トライアル創成期は大会に出場する傍ら、講師としても日本各地を訪れ、第一次トライアルブームに寄与した。その後ブームが下火になった後も、その打破のため、世界的に有名な大会「スコティッシュ・シックスデイズ・トライアル」への出場経験を活かし、岩手で「イーハトーブトライアル大会」を開催。村おこしにもつなげ、これを手本に各地でツーリングトライアルの拡大と開催地の町・村おこしに寄与した。</p> <p>後進の育成にも力を入れ、長男・匠氏を史上最年少で全日本チャンピオンを、世界選手権で日本人初の3位を獲得するまでに育て上げ、古希を過ぎても現役で大会に出場し、幅広い世代に競技の魅力を伝えている。</p>

<p>ひめじ うらら 姫路 麗</p> <p>【ボウリング】</p>	<p>1978年3月21日</p> <p>(46歳)</p>	<p>選手として、2000年にプロ入りして以来、2019年にはROUND1 Grand Championship Bowling レギュラー部門において、14年ぶり9人目のJPBA（(公財)日本プロボウリング協会）トーナメント通算20度目の優勝と永久シード権を獲得、2021年には全日本女子プロボウリング選手権大会において16年ぶり6人目の通算30度目の優勝という結果を残し、プロ入り後間もなく出産を経た後も、現在まで現役プレーヤーとして活躍を続けている。その傍ら、2017年より同協会副会長となり、被災地復興への寄付を目的としたチャリティボウリング大会への参加や、障がい者ボウラーとのボウリング大会への参加等、スポーツを通じた社会貢献にも尽力している。</p>
<p>ますおか ひろし 増岡 浩</p> <p>【モータースポーツ】</p>	<p>1960年3月13日</p> <p>(64歳)</p>	<p>1987年から2009年まで世界一過酷なラリーと言われるダカールラリーに合計21回参戦。2002年、2003年には日本人として初の2連覇を飾り、所属チームの7連覇、通算12勝という記録にも貢献。2012年からは、米国で100年以上の歴史をもつパイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムに監督兼選手として電気自動車で臨み、選手としては3年連続電気自動車クラスで2位、監督として電気自動車クラスの優勝に導くなど、顕著な功績を残し、モータースポーツの認知度向上に寄与した。そのほか、モータースポーツ活動で得た知見を電動車の開発に活かす等、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。</p>
<p>みずたに じゅん 水谷 隼</p> <p>【卓球】</p>	<p>1989年6月9日</p> <p>(35歳)</p>	<p>2003年にドイツ・ブンデスリーガでプレイして以来、長きにわたりプロ卓球選手として活躍し、海外経験も豊富で、様々な功績を残してきた。日本の卓球の競技力向上も目的に2018年に開幕したTリーグには、開幕当初から参戦。初代王者、初代MVPに輝くなど、輝かしい功績を残すとともに、自身の積極的な周知活動によりTリーグの普及に貢献した。2021年には、東京2020オリンピック競技大会で、混合ダブルスにおいて日本卓球界初の金メダル獲得を果たし、Tリーグの価値を示すとともに、人気向上に貢献した。</p>

※ 各団体から提出のあった推薦調書に基づき作成。